

## テレワークの常態化で注目される仮想オフィス

### ◆テレワークの常態化で浮上する社内コミュニケーションの課題

新型コロナ感染症拡大で多くの企業がテレワークを継続するなか、新たな課題が浮上している。2020年11月に東京商工会議所が発表した調査によると、企業の約6割が「社内のコミュニケーション」がテレワークを継続するうえでの最大の課題と回答している。Teamsなどのデジタルツールの導入でオンライン会議、ビジネスチャットで一定のコミュニケーションや情報共有は可能になっているが、出勤機会が減り、「社員の様子や勤務状況が把握しにくい」や「同僚や上司と話す機会が減った」、「気軽な話しかけや雑談ができない」という問題が生じている。

20年12月にパソナ総合研究所が公表した在宅勤務者を対象とした調査では20～30代で「孤立感を感じる」という割合が高く、上司や同僚との頻繁な接触やオンライン飲み会などサークル的な活動を求めていることが明らかになっている。

### ◆大手企業の導入や開発が相次ぐ仮想オフィス

社内コミュニケーションの課題を解消する方法の一つとして、仮想オフィスが注目されている。仮想オフィスとは、Web上にCG（コンピューターグラフィックス）などを用いて構築されたオフィスの仮想空間で、出勤や在宅などの勤務形態に関係なく、全社員がPC上の仮想オフィスに自分のアバター（分身）で出勤して業務を行う。アバターには「作業中」、「会議中」、「休憩中」といった各自の状態が表示される。会議室や休憩室もあり、フロア全体を見まわすことができ、会議の状況、社員の居場所や状態などが把握できる。アバター同士を近づけて挨拶をしたり、話しかけたりする機能もあり、相手の状況を見て話しをしたり、雑談ができるなど、気軽なコミュニケーションがとりやすく孤立感の解消にもつながる。

仮想オフィスのサービスは、システム開発やスタートアップ企業を中心に50～100名規模でのサービスの提供が開始されている。ソニックガーデンの「Remotty(リモティ)」やOPSIONの「クラウドオフィスRISA(リサ)」、パプレア「bizany(ビズエニー)」などがある。

一方、大手企業でも仮想オフィスの導入や開発の動きが活発化している。富士

ソフトは、仮想オフィス「FAM Office（仮称）」を開発し20年7月から社内で運用を開始した。11月の時点で5フロアあり、1フロアあたり150名が配置され、約800名の社員が活用している。新卒内定者の交流会も仮想オフィスで実施し、21年3月中に全社員5,000人の利用を目指している。

日立ソリューションズは、仮想オフィス「Walkabout Workplace」の開発を進めている。日立製作所は21年1月から新常態の働き方を支援するサービスを提供すると発表していて、そのサービスの一つとして提供を開始する。米国でオフィスや大学などの仮想空間サービスで急成長している「VirBELA」も21年中に日本でサービスを開始する。

#### ◆米国ではVR（仮想現実）技術を活用した仮想オフィスの発が活発化

米国ではVR用ヘッドセットを使った仮想オフィスの開発も進んでいる。VRヘッドセット「オキュラス・クエスト」を販売しているフェイスブックは、12月に日本向けのVR専用部署を立ち上げVR仮想オフィス「Infinite Office」開発を開始すると発表した。VR仮想オフィスは金融トレーダーや幹部の間で広がっている。仕事場のトレーディングフロアや研修、また、講演会の場などを再現して、同僚や顧客などと、リアルに近い交流ができ、孤立感を和らげる効果があるという。

仮想オフィスには、コミュニケーション以外のメリットもある。人数制限がなかったり、建物のメンテナンスコストやオフィス賃料も不要である。世界中どこからでもアクセス可能で場所の制約を受けないことも大きなメリットである。

社内コミュニケーションの課題をきっかけに注目されつつある仮想オフィスだが、技術の進展を含め、その動向が注目される。 【新井佳美】

仮想オフィスの導入・開発事例

事業者	内容	展開時期
富士ソフト	仮想オフィス「FAM Office（仮称）」の運用を20年7月に開始。チームごとに席が割り当てられる。会議室や休憩室ある。フロア全体の状況や社員の状態が把握しやすい。将来的に顧客との利用も目指す。	21年3月末までに全社員5,000人に適用
日立ソリューションズ	仮想オフィス「Walkabout Workplace」を開発。PC画面にオフィスのフロアマップが表示され、社員がログインすると画面内の座席に各自のアイコンが表示される。「何気ない相談」、「挨拶」、「雑談」などオフィスの日常を再現できる。	21年1月からサービス提供開始
VirBELA（米国）	豪華なCGのオフィスを自分で作ったアバターが自由に動き回る。自分のアバターを同僚アバターに近づけると、自分の声が相手に聞こえる。相手の状況が一目で分かり、コミュニケーションがとりやすい。講堂、展示会場などの設備もある。	21年中に日本展開予定
フェイスブックジャパン	日本向けVR開発の専用部署を発足。Google型VR端末の新機種「オキュラス・クエスト2」を活用してVR上で、在宅勤務や共同作業ができるVR仮想オフィス「Infinite Office」の開発を開始。	20年12月発表

（出所）各社HP・プレスリリースによりARC作成